

財団法人 白鹿記念酒造博物館
設 立 趣 意 書

西宮における酒造業の歴史は古く、室町時代の学者一条兼良が撰した「尺素往来」に「西宮の旨酒」と紹介されて、そのころからすでに銘酒地と知られ、特に17世紀以降においては、幕府の酒造政策や樽廻船の活躍、さらに宮水の発見など技術の進歩もあって隆盛をきわめ、以来酒造主産地として全国的に有名になりました。

こうして酒造業は西宮における主要産業として発展し、西宮の経済、文化に大きく貢献し、戦前は千石蔵が建ち並び、酒造の町としての景観を呈しておりましたが、第二次世界大戦によりその大半を焼失し、そのうえ近年の社会経済情勢の激動により、酒造業界の隆替もはなはだしく、さらには四季醸造への近代化が進むなかで、伝統産業としての昔の面影はほとんど失われてしまいました。

このような時期に、私たち日本人の生活文化遺産である酒造りの歴史を後世に正しく伝える必要を痛感する西宮市の要請を受け、往時の面影をそのまま伝え、かつ建築史上でも貴重な資料であると評価の高い煉瓦造の酒造蔵（明治25年7月8日陳札あり）、擬洋風建築の住宅（明治21年5月31日陳札あり）及び木造の店（明治27年7月10日陳札あり）の建造物、膨大な灘酒酒造用具（いずれも西宮市ならびに兵庫県指定重要文化財）そして、酒造関係の文書及び文献並びに酒に関する美術工芸品等の散逸を防ぎ、後世に伝えようとそれぞれ収蔵保管し、調査研究及び公開展示を行うため、辰馬本家14代当主辰馬吉男及び辰馬本家酒造株式会社より寄附を受け、財団法人白鹿記念酒造博物館を設立して、その事業の永久の継承運営を期することとなりました。

なお、故笹部新太郎翁が生涯をかけて収集した膨大な桜資料（桜に関する書画、文献、陶磁器、諸道具その他の資料）は故人の意志により西宮市に寄贈されましたが、西宮市の依頼により、当法人の設立後は館蔵品として寄託を受け、収蔵保管、調査研究及び公開展示もあわせて行うことにいたしました。

財団法人 白鹿記念酒造博物館
設立代表者 辰 馬 章 夫